

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200313		
法人名	有限会社ハート		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	佐賀県唐津市椿西町高野534番地2		
自己評価作成日	令和2年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年2月7日	外部評価確定日	令和2年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の要望に少しでも応えられるように取り組んでいます。又、ご家族様が安心できるような施設を目指したい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム安寿は自然に囲まれた静かな環境の中に、併設する有料老人ホームと共に平成24年開設された。開設時の管理者、職員と共に考えられた理念は、異動により管理者が変わっても今も継続され全職員で共有している。昨年7月より施設内の一室に託児所がオープン、系列施設に勤務する職員の子供4人が利用している。子供たちは自由に利用者とおふれあい、利用者の笑顔が見られている。職員、利用者、子供、3者にとって相乗効果があり安心した支援が出来ている。多様な利用者に対して最善の支援が出来る様に管理者、職員は日頃からより良いコミュニケーションに努め連携を図っている。食事は毎食施設内で担当職員が作るが、たまに調理の得意な職員が変わって作る等、臨機応変に対応している。調理時の野菜を刻む音や料理の香り、手作りおやつが提供され食べるのが楽しい施設である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員が増え、全職員に再度理念の意味を理解していただく為に唱和を行っている。理念は、詰所、リビングなどに掲示し、理念の共有と実践につなげている。	平成24年開設時の管理者、スタッフで考え、現在まで変更されたことは無い。理念は施設内に掲示しており、職員勉強会等で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回の運営推進会議に参加して頂き、施設での取り組みを伝えていきます。又、地域行事(集会)などに参加させて頂いています。	地域自治会に参加、会費も納入している。地域の清掃時は自施設周辺の清掃を任せられ、集会にも管理者が積極的に参加している。周辺に民家が少ない為日頃の近隣住民の立ち寄りには少ないが、有料老人ホームとの合同夏まつりには地域住民の参加があり、施設を知ってもらう良い機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加させて頂いています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的に行っており、事故報告や行事報告など意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に一回開催され、事業所からの活動報告や地域との情報交換の場となっている。運営推進委員7名のうち参加者4~5人と少ない時があり今後活発な委員会を行う為にも参加努力を検討して行く予定である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があつたりすると、担当の方に連絡を取り相談させて頂いています。	管理者は市役所職員と顔見知りの関係であり、不明な事があれば何でも気軽に相談出来る関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に身体拘束の説明は行い又、施設での勉強会を行っています。施錠については、夜間のみ行っています。	身体拘束に関して入居時に説明を行っている。研修に参加した職員は勉強会で発表し全職員に周知している。夜間は施錠しているが、日中は職員が細目に見守りを行い安心して自由に過ごす事が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加出来る時参加し、施設内にて勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人を利用されている利用者の方がおられ後見人についての勉強会を行いました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす際にしっかり説明を行うように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とのコミュニケーションを大事にしています。又、家族様が面会に来られた際に状態報告を行い家族様の意向などがあった際は会議にて検討しています。	家族の面会も多く面会時は状況報告等行い、気軽に意見を言って頂ける様日頃からコミュニケーションを図っている。事業所内に意見箱を設置しているが意見が入っていた事は無い。不定期だが施設内で家族会が行われ入居者、家族、職員が参加し、職員の手料理で和気藹藹と開催されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行い、スタッフが意見を言えるような会議を行っています。	代表者、管理者は日頃より職員との会話を多く持ちコミュニケーションを図っている。気軽に何でも話せる関係が出来ており、日頃の気付きや月1回の職員勉強会での意見は全職員で検討を行いより良い支援につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全スタッフが、いつでも相談できるようにコミュニケーションをとったり、食事会などを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を実施しています。施設外研修に参加を促します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修などに参加した時などに意見交換、情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に慣れて頂けるようように本人の状態に応じて対応するように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた際や、担当者会議に来られた時などに、家族様からの要望などがあった際は、CMと相談をしながら要望に応えられるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の状態を職員同士、情報交換を行い必要なサービスがあれば家族に連絡をしてサービスを行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言動などに耳を傾け共感し、一緒に楽しんだり出来るような環境作りを心がけています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、入居者様に関わる事をお互いに相談し、入居者様と職員だけの事に納めず、入居者様への思いやりの気持ちを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、日頃の状態を記載した手紙を家族様に請求書と一緒に送らせてもらっています。	利用者には担当職員が決まっており、担当者は馴染みの場所や関係を把握している。馴染みの関係が途切れない様入居以前に利用していた美容室やメガネ屋等訪問依頼を行っている。施設でサービスを受ける事が出来ており以前からの関係が途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握して間を取り持つて良い関係性を続けていけるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も引き続き相談や支援に努めるよう心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の要望を聞くように心がけています。又、要望が困難な場合は、家族様や後見人に協力をお願いしたりして対応しています。	担当職員は日頃の何気ないコミュニケーションの中から本人の意向を確認している。本人からの訴え等が確認できない場合は担当職員が本人の思いを考慮し居心地の良い生活を送る事が出来る様支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、家族様とのコミュニケーションを図り、これまでのその人らしい生活を追求、把握していきます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する本人の状態を常に情報交換を実施し見逃さないように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がある際に、スタッフ同士での情報交換や、家族様の意向を踏まえたくえで介護計画を作成しています。	介護支援専門員は日頃の介護記録の確認や職員から状況を聞き取り、本人の意向・状態の確認、家族よりケアプランに対する意向を確認した上でプランを作成している。作成したケアプランは介護支援専門員がモニタリングを行い定期的又は状況により再作成し利用者にとって最適なプランになる様努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかるような記録の書き方をするように心がけ、記録を見ながら情報交換を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人に必要なサービスを検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に配慮して、毎日楽しく生活が送れるように心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医院ありますが、入居前からのかかりつけ医のままの利用者の方もいます。協力医院を利用される方は、月に2回の往診があり変化などがあれば家族に報告を行っています。	入居契約時緊急時の対応等の関係から主治医変更の説明を行っている。週2回主治医の定期往診があり健康状態の把握が行われ、往診時の状況はその都度家族へ報告されている。急に受診が必要な場合や他科受診が必要な場合も職員が付き添いを行っている。家族が以前からのかかりつけ医を希望される場合も継続利用出来る様対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常に気付いた際には、早めに協力医院に連絡し指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、定期的に病院を訪問し、その都度家族様に状態報告するようにし又、退院後のケアについても病院と相談するように心がけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、早めの医療機関に相談をし家族様の要望に応えるように行ってます。又、それと同時に家族のケアも行いながら主治医と相談をします。	「入居者が重度化した場合における対応にかかる指針」があり入居契約時本人・家族へ説明が行われている。高齢、既往症の悪化により徐々にADLが低下され、経口摂取が困難となり胃ろう造設された利用者も主治医との連携によりグループホームでの安心した生活を継続されている。H24年より8年弱の期間に多数の看取り経験があり、家族からも感謝されている。最後まで安心して利用できる施設である	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は、管理者、近くの看護師に連絡を取れるように対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。又、隣接している施設との合同訓練や又地域の消防団からのアドバイスなどをもらってます。	併設する有料老人ホームと合同で年2回夜間想定訓練を行っている。地域消防団員の参加もあり、施設の利用者や建物の状況を確認している。職員は消火器の使用方法を経験し夜間想定で訓練を行っている。日中のみの訓練になっている為実際の夜間の暗さを体験する機会を検討予定である。非常時の水・食料品は備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けなどは、他の利用者に聞こえないように心がけ、入浴などは一人ずつの対応を心がけてます。	個人情報保護の観点からグループホーム便りの写真使用について契約時家族に同意を得ている。排泄介助や入浴介助では口調や声の大きさ等も配慮しプライバシーや尊厳の保持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを聞くようにし、いくつかの選択をだし選ばれるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室やリビングを自分のペースで過ごさせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選んだりされる方もおられます。また、季節感に応じた声掛けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを尋ねるが、なんでもいい。との返答が多いです。又、配膳などは難しく車いすでも出来るお盆ふきなどを手伝ってもらっています。	毎日の食事メニューは作成されておらず、冷蔵庫の中にある食材で重複しない様工夫しながら職員が毎食作っている。利用者からおやつのリクエストがあれば対応出来る様準備している。誕生日にはケーキを作り全員で誕生日会を行ったり、ホール内のキッチンで利用者、職員が言葉を交わしながら調理され食べることが楽しみになる様支援されている。食事形態に工夫が必要な利用者には安全に摂取して頂ける様考慮し飲み込みを確認しながら食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の、食事摂取量や、水分チェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には自分でお願ひしています。出来ない方には、お手伝いを行い状態によっては訪問歯科をお願いしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ案内を行ったりしています。又、昼間はリハビリパンツに尿取りパットで対応、夜間帯はオムツに尿取りパットを利用される方もおられます。	要介護4～5の利用者が3人利用されており常時紙おむつ使用定期的におむつ交換を行っている。床ずれ予防の為エアーマット使用中。定期の体位変換を行い入浴時やパット交換時には皮膚の状態観察を行っている。床ずれ形成している利用者はいない。リハビリパンツ利用者は日中トイレ介助を基本に、本人の様子を見ながらトイレ誘導を行っている。紙パンツから布パンツ利用になった方もおられ、排泄の自立とパット利用料削減を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をたくさんとっていただくように声掛けを行っています。又、おやつや、食事で工夫したり病院に相談したりして対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を行っています。午前中の方や、午後を希望される方もおられ、自分で出来ない部分はお手伝いをし、自分で出来る方には自分でお願ひしています。拒否がある方は無理にお願ひしないように心がけています。	冬場は基本週2回夏場は週3回職員二人介助で入浴介助を行っている。入浴を嫌がられる場合は時間をずらして声をかけたり、午後を希望される利用者には毎回午後入浴してもらう等利用者の希望に添って支援している。身体機能が低下している利用者には負担がかからない様配慮しながら安全に入浴介助が行われている。衣類の準備が出来る利用者には入浴前に衣類を選んで貰う等自主性を考慮しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は利用者の体調に合わせて休息をとっていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に薬剤師より説明を受けています。何か変化などがあれば、すぐに相談をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、お盆ふきなどを自分の役割として積極的に行っている利用者もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や、利用者の体調などに合わせて外出を決めたりすることもあります。歩行困難の利用者は車いすにて施設周辺の散歩に出かけたりしています。	直近での外出の機会はないが、例年暖かくなり花の咲く時期には桜や牡丹、蘭の花を見に外出を支援している。日頃は天候や体調を見ながら施設周辺の散策を行い気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設自体はお金の管理はしていませんが、自分で小銭程度所持してる利用者の方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話はいつでも利用できるようにしています。携帯電話を所持されてる利用者もおられ、年賀状を書かれる利用者もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビングには季節の飾りつけをし、ソファを置くことでゆっくりと過ごせるようにしています。	季節を感じる事が出来る様ホールには行事毎の飾り付けを行う様気にかけている。昨年7月より託児所を開所した事で子供の声がホールに響き利用者の笑顔が増えている。子供が元気に過ごしている中で飾りを剥いだり壊したりする事もあるが利用者、職員も笑って過ごしている。廊下を曲がる部分外側に三角形の舗装したスペースがあり外光が入り明るい。ウッドデッキにする事で外気浴や洗濯物干しに活用出来る職員の希望や、利用者支援にも有効になる為検討されるのもいいのではないかと考える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間を過ごせるように、廊下などに椅子を置き自由に座ったり出来るようにセッティングしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時には持ち込み可能と家族様にはお話ししています。今現在、冷蔵庫の持ち込みされてる利用者の方はいませんが、冬場の乾燥などを防ぐため加湿器の持ち込みの方が数名いらっしゃいます。	ベッド、寝具、整理タンスは施設で準備している。以前は仏壇を持ってこられた利用者もいた。壁には家族の写真が貼ってあり、自室と認識されている。感染症が心配される中、居室の乾燥対策として濡れタオルを掛けたり加湿器の持ち込みをしている利用者もある。冬場は特に乾燥対策に気を付けている。居室は担当職員が清掃を行い心地よく暮らす事が出来る様支援している。家族の希望があれば居室に泊まる事も出来る。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、各部屋には表札や飾りなどを付けて目印にしています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない